

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501156		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル登別館 山ユニット		
所在地	登別市若山町3丁目8-45		
自己評価作成日	令和4年2月	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173501156-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の生活機能の維持、向上を目的とし認知症の原因疾患に合わせ個別援助が徹底されている。その為の認知症に関わる全ての分野に対しての勉強会、研修を受け自己研鑽を怠らず日々の支援に繋げている。介護の原則についてもより良い介護支援の為の勉強会も常にユニットで行われている。個別援助計画も職員全員が作成出来る。仕事をしながら勉強出来る環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームアウル登別館」は、ほど近い距離にいくつかの大型スーパーもある静かな住宅地に位置し開設19年目を迎えた2ユニットの事業所である。趣のある建物は周囲に溶け込み内部は木の温もりや昔馴染みの調度品を設え、ウッドデッキやセミパブリックスペースもある。地域で暮らす当たり前の生活ができる支援を開設時より行っているが、感染症流行による制限があり、職員は利用者と家族のやるせ無い心情に心を馳せ、その中でも最善の方法を見出しながら利用者支援に臨んでいる。感染対策や人流を見極めつつ、本好きな利用者と本屋に出かけたり、ドライブで地元の海や温泉、公園などの美しい景色に触れられるよう個別支援を行っている。一例ではあるが、利用者が冷蔵庫から飲み物を取り出して好きな時に飲める環境や入浴では就寝前や毎日入浴したいなどの利用開始前の習慣や希望に対応している。職員全員で取り組むアセスメントやモニタリング、生活支援計画の一連のケアマネジメントの質が高く、観察や洞察力の元に根拠を明確にしたものとなっている。権利擁護委員会を軸にした委員会活動は職員自ら運営に当たり相互にスーパーバイズし合う仕組みにより質を高めている。終末期における看取り支援は生活の延長線として捉え、これまで家族等の希望により多数の支援に尽力している。法人代表者は元より管理者の一環とした指導の元に職員一同がベクトルを合わせ、掲げている法人理念とケア理念が全体のものとなっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念はスタッフ全員で話し合いをした上で作成している。ケア理念では「人との繋がりを大切にす」とあり、地域との交流や繋がりを目的としている。	法人理念に地域密着型サービスの意義と役割を盛り込み、当理念を根幹とする事業所ケア理念を標榜している。事業所玄関への掲示や重要事項説明書とパンフレットに明示し、利用契約時に家族と利用者へ説明している。職員は理念カードを携帯している。理念は事業所全体のものとなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの影響により積極的な交流は出来ていないが、近所を歩いた際に挨拶や会話などの交流はある。	感染症の流行より例年実施していた事業所の力を活かした講演会などの町内会との交流は難しい状況であるが、散歩やゴミ捨てで近所の方々と顔を合わせた際にはいつも通りに挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は町内に向けた認知症の理解や支援に関する講演などに参加していたが、現在はコロナウィルスの影響により機会が作れない状況にある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウィルスの影響により会議は自粛し、書類提出のみに留まっている。会議を開いていた時は参加者が少なかったため、参加者を増やし、サービス向上に活かせるかが今後の課題である。	参集開催を見送り定期的に書面にて議題である事業報告・事故報告がなされ、会議関係者へ運営推進会議報告書を送付している。事故・ヒヤリハット報告書・再発防止策や会議録など詳細な書類により運営の取り組み状況を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウィルスの影響により市町村担当者との連絡は書類提出のみに留まっており、取り組みとしてはほぼ出来ていない。	市の担当者とは、事業所からの運営に係る書類の提出の他に、介護保険制度、新型コロナウイルス対策等に係るメールの送付やオンライン研修の案内、マスク、手袋が届けられ、市民福祉の維持や充実に向け協働で取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正職員による権利擁護委員会を設置しており、年6回以上、会議を通じて勉強会を行い、身体拘束をしないケアの理解や認識の向上に努めている。	身体拘束排除の指針を定め、身体拘束廃止委員会を開催している。毎月実施している権利擁護委員会における一つの分掌委員会としても位置付け、不適切ケアについての具体例を職員自ら提示して全体で意見交換がなされている。これらに係る内部研修の開催頻度も高く、身体拘束をしないケアの理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に権利擁護委員会にて、虐待防止に努めている。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウィルスの影響により研修の機会がなく、学ぶ事は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、項目ごとに都度説明を行い、ご家族の理解を得た上でやっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、アウルに来所時や電話報告時などで意見交換を行っており、会議などでその意見が運営に反映できるように努めている。	利用開始時より利用者から要望等が出せる環境作りに努め、また引き出すようにしている。家族へは毎月担当職員が手書きで日頃の様子と個別の写真を送付し、受診状況を電話で報告するなど状況を発信する中で希望や意見等を出しやすくするようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談など、職員が意見や提案を伝える機会がある。さらには代表者や管理者が出社している時は常時意見を伝えられる環境にある。	全体会議やユニット会議で運営に関する職員意見が出されている。ヒヤリハットのより良い取り組み方や事業所内危険箇所と考えられるマップ作りの提案が上がるなど現場職員の意見や情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。権利擁護委員会下に3つの委員会が組織され職員が積極的な運営を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力評価シートを用いて、職員個々の能力を把握している。職員が向上心持って働けるよう柔軟に対応できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウィルスの影響により法人外の研修はあまり機会が作れていないが、法人内では機会を作り、各職員がスキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染防止の為、現在は自粛している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で、本人から事前にお話を聞き、思いに沿える様に応え、安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で、ご家族から事前にお話を聞き、思いに沿える様に努めている。また、何でも言ってもらえるよう、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の話し合いで得た情報を基に、何が 필요한かをチーム内で検討して見極め、実践に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者主体の生活を心がけており、入居者と共に生活できるように良好な関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が本人との距離が出来ないよう、電話連絡等の際に最近の様子などを報告するなどして、ご家族と共に本人を支えていけるような関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響により、面会したり思い出の場所に行ったりすることが難しい状況にあるが、電話で話をしたりドライブに行くなど、可能な範囲で支援している。	現在はまん延防止期間中により家族面会は中止であるが、緩和時期は窓越しでの面会をサポートしている。家族からの電話の取り次ぎや携帯電話を所持している利用者は家族と自由に通話をしている。ドライブで地元の海や温泉、公園など綺麗な景色に触れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性については概ね把握しており、変化があったら職員間で情報共有している。関係性が良好となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナウィルスの感染拡大防止により、関係継続が困難な状況となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の言動や様子をアセスメントし、本人のニーズについて検討を行っている。	毎月のユニット会議で利用者全員のカンファレンスを実施し、職員が把握した本人情報の共有や意見交換を行い検討がなされている。職員はセンター方式のアセスメントに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談での情報やライフヒストリー等をまとめた個人チャートをユニットに保管しており、確認したり新人スタッフが把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のアセスメント、職員間での情報共有などから現状の把握について随時行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でのケースカンファレンスや日々の職員間のプチカンファレンス等で状況を把握しながら今後の支援計画に活かしている。	生活支援計画評価表(モニタリング表)に根拠を明確にした記載を重ね今後のより良いケアのための方針を導き出している。介護計画作成時ごとにアセスメントを定期及び必要時に更新し新たな視点を抽出している。関係者全体で介護計画を作り上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートにその日の出来事を記入し、職員間との情報共有は常時なされている。また、その情報をユニット会議にて今後の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は入居者本人主体の生活を心掛けており、ニーズに対して優先的かつ柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響により自粛している。出来る限りの事は出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院はこれまでに利用してきた所を継続している。本人の状態が変わって変更の必要性がある場合はご家族の同意を得て行っている。	利用者の馴染みの医師による継続的な医療が受けられるようにしている。通院が難しくなった場合や看取りの際は協力医による往診態勢を整えている。医療連携で週に1度、看護師が訪問し健康観察が行われている。	

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問時では、日常の様子を伝えたり、体調に変化が見られた時はいつでも相談が出来る環境にあり、迅速な対応を行える状態にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合は、可能であれば面会に行き、早期退院が出来るように病院関係者と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と共に支えていけるように、今後についてのあり方などを医師、家族、職員とで話し合う場を設けて支援に取り組んでいる。	利用契約時に看取り介護についての同意書について説明している。状態変化に応じ医師の判断を得て重度化対応・終末期ケア対応方針を説明し、インフォームドコンセントも取り、関係者全体で方針の統一を図り対応している。これまで多くの看取り支援に尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの設置や救命救急講習の受講など、急変や事故に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルの作成や年に2回以上の避難訓練などを通じて非常時に備えているが、地域との協力体制はほとんど築けていない。	令和3年2月・10月に火災・日中想定避難訓練を実施した。令和4年3月30日に火災・夜間想定、消防署立ち会いの下での訓練が計画されている。感染症の収束状況を見極め災害時における地域住民の協力体制の整備に向かう事としている。自然災害における業務継続計画(BOP)が策定されている。	災害はいつ起こるか分からない状況であり、いざという時に確実に避難誘導が実施できるよう避難訓練を積み重ねて行く考えを示しているため、その取り組みに期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し言葉掛けや関わり等、十分に注意しながら接している。	職員は全体会議や研修で言葉かけや関わり方を学び、全体的に優しい接遇である。事業所は利用者の家であるとの認識の元に利用者1人ひとりに挨拶をかかさぬなどの礼儀もある。個人記録は保管場所を取り決め管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力を見極めながら、本人が自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体の生活が出来る事をスタッフは心掛けており、柔軟な対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意向に沿えるよう支援を行っている。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力を見極めながら、入居者が主体となって行えるよう意思や意向に配慮しながら支援を行っている。	食材の下ごしらえや調理、配下膳を共にやっている。感染症流行のため職員と一緒に食事は出来ないが、感染対策を講じて同じ食卓を囲んでいる。チラシを見ている利用者に食べたいものを聞くなど食に対する日常がある。ドライブスルーやテイクアウト、お寿司やピザ等の要望にも沿い出前も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の飲食の量を確認しながら、無理強いはず、飲食出来る時に飲食出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が負担に感じてしまう事があるので、毎食後の口腔ケアは徹底していない。可能な限りで行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントシートに排泄状況を記入し、排泄パターンを確認している。本人の状態に応じながら、可能な場合はトイレで排泄出来るよう自立への支援を行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、利用者が表出するシグナルについても介護計画に載せ見落とさない支援に努めている。衛生用品の使用も根拠を明確にして個々に沿った対応である。職員からの「トイレ」は禁止言葉として、いつトイレ誘導を行ったか他者に分からないほど、利用者の羞恥心への配慮がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために食事形態を工夫する等の支援は行っている。それでも難しい場合は医療機関に相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日時は決まっておらず、本人が入浴したい時に入浴できるよう、いつでも入れるよう準備している。	入浴のスケジュールを決めず、利用者1人ひとりのこれまでの入浴習慣や希望に合わせて柔軟に対応している。毎日の入浴や就寝前、朝風呂など入りたい時に入浴ができています。入浴剤なども使用し、気持ちよく楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたいと思った時や職員が本人に休息が必要と思われる時など、いつでも休めるように準備や支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントシートと一緒に薬の情報シートをファイリングしており、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングには嗜好品となる物が置いてあり、入居者が生活を楽しめるよう工夫している。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(山ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響もあり、可能な範囲でドライブ等の支援を行っている。	感染症の流行によりこれまでの当たり前としていた外出が難しい状況である。受診やドライブなどが主だった外出となっている。車窓から海や登別温泉、公園など馴染みの場所の景色を楽しんでいる。制限緩和時は人流や感染対策を講じつつ、近隣の本屋へ個別外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ち事の大切さを理解した上で、本人がお金の管理が可能であれば、希望に沿って管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などの交流する環境は出来ており、本人の希望に沿って行う事が出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節を感じさせる物を飾ったり、ゆったりと生活出来るように家具の配置を考慮したりと、入居者が生活しやすいよう工夫している。また、五感の刺激が入居者にとって不快なものとならないよう配慮している。	談話スペースは囲炉裏や昔馴染みの調度品を設え、懐かしく和みの空間となっている。リビング、ダイニングはテラスハウスとつながり明るく開放的で、食卓テーブルやソファも束縛感の無い配置である。1階2階で1ユニットを構成し、吹き抜けに位置する階段には目印となる色を縁につけ昇降に配慮している。山・海ユニットが各階でつながり交流が保ちやすい環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士で居室で一緒に過ごしたり、囲炉裏のスペースでゆっくりと過ごす事が出来るなど、その時の気分に合わせた生活を送る事が出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってこることで、本人が安心して生活することが出来る事をご家族に理解して頂き、馴染みの物を持ってきて下さるよう伝えている。	馴染みの鏡台、ベッド、冷蔵庫や仏壇などを持ち込んでいる。利用者は仏壇に毎朝ご飯と水を供え、入居前と変わらない生活をしている。編み物、新聞を読んだりラジオを聞いたり、植木を飾るなど自分らしく、心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が自立した生活を送れるよう、風紀を乱さない程度で印となるような物を設置するなどの工夫を行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501156		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル登別館 海ユニット		
所在地	登別市若山町3丁目8-45		
自己評価作成日	令和4年1月	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の生活機能の維持、向上を目的とし認知症の原因疾患に合わせ個別援助が徹底されている。その為の認知症に関わる全ての分野に対しての勉強会、研修を受け自己研鑽を怠らず日々の支援に繋げている。介護の原則についてもより良い介護支援の為の勉強会も常にユニットで行われている。個別援助計画も職員全員が作成出来る。仕事をしながら勉強出来る環境である。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0173501156-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	○		○	○
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流の目的や意義等を踏まえた理念となっており、職員全員に理念カードの携帯を義務づけ認識や意識の共有に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民については、入居者との散歩等もコロナの影響で困難になっている。また、町内会についても集會自体が行われていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の集いの場で職員が認知症についての説明を行う等認知症に対する理解や協力体制の向上に向けて、地域の協力を仰ぎながら積極的に取り組んでいたが、前年度同様外部との接触は一切出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響により運営推進会議での話し合いが出来ていない為書面での報告のみになっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上記同様報告のみとなっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員会で年6回の会議を行い、職員全員が身体拘束廃止、高齢者虐待防止の為の勉強会をほぼ毎月行い、理解と認識の向上を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、権利擁護委員で年6回の会議を行い、虐待や不適切なケアの防止を図っている。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部の研修の参加が困難で学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明を行う際には各項目ごとに十分な説明を行い、疑問な点はないか尋ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に関しては電話連絡の際に運営や日々の支援に対する意見や感想等の確認を行い、全体会議にて意見等を基にサービス向上に向けて話し合いが行われている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、管理者が職員全員と個別面談を行い、運営に関する意見や提案について聞き取りを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力評価シートを活用し、職員個々の能力や実績等を把握する事により、職員が向上心や安心感を持って働き続けられる職場環境となるよう積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修には出席出来ていないが、法人内研修では様々な課題により研修を受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との接触を避ける為出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族との入居前の事前面談の際に、今後の生活に対する不安や疑問、希望や意向について聞き取りを行い、情報をチームで速やかに共有し、良好な関係性が確保できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面談等では聞き取りを行い、入居後は家族と電話連絡を中心に要望や不安等はないか細目に確認する事により信頼関係の構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談等での情報を基にチームで速やかに検討を行い、利用者や家族が必要としている支援についての見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員個々が身体的自立だけでなく、精神的自立(自己決定、生活の質等)に対する意識やその重要性を常に念頭に置きながら、介護する側、介護される側の線を引かないよう徹底している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	前年度同様面会が出来ていない為電話での連絡、相談のみとなっているが、普段の様子やご家族の要望等聞きながら支援の方向性をご家族と決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	前年度同様コロナウィルスの影響により面会制限があり面会できていないが電話や窓越しでの面会を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的な関わりの中で利用者同士の関係性の把握に努め良好な関係が築けるよう環境整備を行ったり、きっかけ作りを行い、ご本人達で解決出来る事は介入はしない。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	前年度同様、関わる事が困難になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な関わりの中で利用者本人の言動や様子等から推察し、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談での聞き取りや入居後の日常生活での本人や家族とのやり取りの中でこれまでの暮らしぶりや生活習慣などについて確認を行い、職員間で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式やアセスメントシート等を活用し、利用者個々の心身の状態や「している事」「出来る事」「したい事」等現状の把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や医療機関等と密に連携を図り、意向や指示等の確認を行いながら日常的な職員間でのプチカンファレンスや定期的なユニット会議にて課題を分析し、改善に向けた支援について検討を行いながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に個々の介護計画もファイリングし、常に介護計画の支援内容を確認しながら、実施状況や結果等について記録し、引継ぎや申し送り等にて職員間で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位の視点を常に持ち、グループホームとしての特性等も十分に理解した中で支援の検討等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度同様コロナウィルスの影響により行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族の希望に沿った、かかりつけ医への受診が継続出来ている。又、状態の変化に応じて訪問診療についての提案を行っている。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の健康状態を観察し、体調に変化等が見られた場合には、速やかに訪問看護ステーションに状況を報告し、指示を仰ぎながら受診の調整等も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には早期の退院や受け入れ態勢の準備に向けて医療関係者と情報交換を積極的に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要性を早期から予測し早めに医療機関や本人、家族と今後の方向性についての話し合いの場を設け、共通の方針、方向性で支援が行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は行われていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行っているが、地域との協力体制は築く事が困難になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で常に適切な声掛けがお互い行えているか確認、注意しあい、より適切な声掛けが行えるよう振り返りも怠らず行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	内部研修等を通じて、職員全員が自立支援における精神的自立の重要性を十分に理解した上で、意思表示や自己決定に対する働きかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が利用者本位と本意の支援の意義や重要性を理解した上で支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の習慣や意向に合わせ継続できるように支援している。		

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の心身の状態を見極め、日々の生活の中で意向や思い、活動に対する意欲や習慣等確認し、家事全般の参加を自ら行えるよう環境を整備し促している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録の記入や申し送りにて利用者個々の食事や水分の摂取状況を職員間で共有し、アセスメント等にて検討を行った支援方針や支援方法に基づき、支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの有する能力に応じて支援出来ている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録の記入を徹底し、都度排泄状況を分析し、排泄パターン等を把握、予測しながらトイレ通所の促し等の支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の体質やその時々々の体調等にも合わせ、医療関係者とも連携を図りながら、生活面、医療面での支援を行う事により便秘の予防に繋げている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々の意向や体調に合わせて、いつでも入浴できるよう準備、促しを行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の習慣や身体状況等を日々の関わりの中で観察し、その時々々の身体状況に合わせた安眠や休息確保に向けた支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも服薬内容を確認出来るよう利用者個々の処方箋をファイルしており、体調変化に対して職員全員が対応できるよう準備している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員間での日常的なプチカンファレンス等を通じて、利用者の好みや生活に対する意向等、情報共有を図る事で気分転換や満足感や充実感に繋がる支援に努めている。			

グループホーム朝風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(海ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前年度同様でドライブのみとなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事大切さや意義を十分理解しているが今年度は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用出来る方には使用出来るよう都度支援を行い、公衆電話を設置して何時でも使用出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境因子の影響を十分理解した上で、光や温度、湿度の調整や換気等、快適に過ごせる環境作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等共用空間とは別に敢えて死角となる空間を設けており、利用者個々がその時の気分に合わせて思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には、その目的等も十分に家族に説明した上で、使い慣れた物をお持ち頂くようにしている。生活の中でご本人とも話し合い、飾りつけを行う等工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には表札、トイレには案内プレートを設置、夜間はさり気なくトイレに照明が当たるよう工夫し、自立に繋がるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームアウル登別館

作成日：令和 4年 3月 30日

市町村受理日：令和 4年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間で想定した避難訓練は夜勤者(2名)で入居者全員を避難させる為、時間を要してしまっている事が課題である。	消防からは火災発生から10分以内を目標にと指導を受けており、10分以内での全員の避難誘導を目標とする。	避難訓練後は全体会議を通じて目標達成に向けての検証や検討を行い、職員全員が対応可能にし、避難訓練を重ねていく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。